

サーチライト With Pastor Jon 黙示録 第2章 パート3

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」

ヘブル4:7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rin

また、スマルナにある教会の御使いに書き送れ。

『初めであり、終わりである方、死んで、また生きた方が言われる。(黙示録 2:8)

「わたしは、あなたの苦しみと貧しさを知っている。」(黙示録 2:9)

苦しみ砕かれる。これが今回の内容です。

スマルナ…苦しめられ砕かれる。

「あなたの苦しみと貧しさを知っている。」(黙示録 2:9)

「あなたが受けようとしている苦しみを恐れてはいけない。見よ。悪魔はあなたがたをためすために、あなたがたのうちのある人たちを牢に投げ入れようとしている。

あなたがたは十日の間苦しみを受ける。死に至るまで忠実でありなさい。

そうすれば、わたしはあなたにいのちの冠を与えよう。」(黙示録 2:10)

「耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。

勝利を得る者は、決して第二の死によってそこなわれることはない。」(黙示録 2:11)

スミルナの教会は、AD100年から312年までの迫害の時代を象徴しています。
スミルナは没薬という意味で、それは、砕かれて初めてその香りを放つのです。
香りを出すために砕かれなければならない没薬。これは、木から採取して抽出されます。
木と言えどももちろん十字架。十字架を砕く。スミルナ。没薬。
この没薬は、イエスの生涯で3回出てきました。

1回目、彼らは（イエス誕生の時、東方の博士たちは）、黄金、乳香、没薬を持って来ました。黄金は王に贈るもの、乳香は礼拝の際に祭司が祭壇で焚くもの、没薬は埋葬用の香草。このことを、王であり大祭司であり、最高の預言者であるイエスご自身が預言しました。
イエスは彼らに答えて言われた。

「この神殿をこわしてみなさい。わたしは、三日でそれを建てよう。」（ヨハネ 2:19）

没薬。砕かれて香りを放ち、木から採れるもの。
彼らが、それをイエスに贈ったのは興味深い事です。

2回目の意味深い出来事は、イエスが十字架に付けられた時にも、これが与えられたという事です。

兵士が、痛みを和らげるために、それを海綿に含ませ、イエスに差し出しました。

しかし、イエスは拒んだ。

イエスは抗うつ剤を飲みませんでした。鎮痛剤も、どんな薬も飲まなかった。

「父が、わたしに与えた苦痛は受け入れる。」と言って、差し出された没薬を拒否しました。

私たちもこれを手本にするべきです。今の世の中、何でも薬に頼り過ぎる。

「うつ気味で気分が落ち込みますか？はい、抗うつ剤。」「痛い？はい、鎮痛剤。」

絶対にダメ!!

現代の傾向がどうであれ、たとえクリスチャンのカウンセラーが勧めたとしても、砕かれて、十字架を負うことを止めさせるような薬を、絶対に飲んではいけません！

ここで私が言っているのは、具体的な病気に処方された薬のことではなく、精神面のことで、余りにも多くのクリスチャンが、自分の十字架を乗り越えるのに、クスリ、没薬に頼り過ぎています。

主日の格言にもあるように、「十字架無くして、冠は無い。」「棘無くして、王座は無い。」「苦痛無くして…祝福は無い。知ることはできない。」

私たちは、苦痛を味合わなければならないのです。

イエスがその手本を示してくれました。イエスは、それが没薬だとわかるとすぐに拒否しました。「わたしは、この十字架の苦しみを和らげるようなことはしない。」

この、クスリに頼り過ぎるという流れにはまって、流されてしまわないように。
非常に多くの人々が、クリスチャンでさえも、「あの薬を飲んでおこう。」「子供にこれを飲ませておこう。」と言っています。
そんな考え方をしないように、気を付けて下さい。
よく注意して! 十分に気を付けて!! もう一度言います。本当に気を付けて!!!

3 回目にイエスに没薬が与えられようとしたのは、復活の日曜日の朝。埋葬するために人々がやって来ましたが、イエスはそこにはいませんでした。イエスは蘇ったのです!
イザヤ書 60 章には、イエスの再臨について書かれています。
再臨の時には、
らくだの大群、ミデヤンとエファアの若いらくだが、あなたのところに押し寄せる。
これらシェバから来るものはみな、金と乳香を携えて来て、主の奇しいみわざを宣べ伝える。(イザヤ書 60:6)

でも、没薬は持ってこないのです。
イエスの再臨は、死ぬために来られるのではないからです。
彼は既に対価を支払い、十字架で砕かれました。
次は、王として支配するために来られます。
だから、王のために黄金、祭司のために乳香。
しかし、イエスご自身の死や苦難のための没薬はもういらぬのです。

ということで、スミルナ。没薬。打ち砕かれる。
実際にスミルナ教会の人々は、激しい苦難の時代の中において、打ち砕かれていたのです。
皆さん、次のことを理解しておいて下さい。
黙示録 2 章 10 節の終わりの部分の“十日間”。
これは、AD100 年から 313 年までの間、一致した目的を持って行動する、十人のローマ皇帝が立つという事です。
事実、その十人のローマ皇帝たちは、クリスチャンを残酷に迫害し、非常に激しく攻撃しました。まさにイエスが起こると言った通りに、彼らは虐殺されていきました。

その際、9 節にあるように、この迫害にはユダヤ人も加担していたのです。
歴史でも明らかですが、ユダヤ人という民族は、常に迫害の対象とされ続けてきました。そのため、彼らはスミルナや他の地で、迫害の矛先が、自分たちではなくクリスチャンに向くように仕向けたのです。
聖餐式を歪曲して伝え、クリスチャンが血や人肉を飲み食いしていると訴えました。

こうして、スミルナやローマ帝国の他の地域に住むユダヤ人は、迫害の狙いがクリスチャンになるように、自分たちがそれから逸らされるようにと動いたのです。

しかし、ここでイエスの言葉をよく見て下さい。

「またユダヤ人だと自称しているが、実はそうでなく、かえってサタンの会衆である人たちから、ののしられていることも知っている。」(黙示録 2:9)

「彼らは本当のユダヤ人ではない。」とはどういう意味でしょうか。

彼らは人種としてはユダヤ人でしょう。しかし神の目にはユダヤ人ではなかったのです。

ユダヤ人にとってクリスチャンよりももっと敵だったのは、自分たちを抹殺するために、イエスの名によって、巨大な軍を組んだ十字軍の異教徒たちでした。十字軍は、イエスの名によって、膨大な数のユダヤ人を虐殺してきたのです。

十字軍は非常に卑劣で、教会史上、同じようなことが何度も行われてきました。

十字軍はクリスチャンではない！ 本人たちが何と言おうと、絶対に違う!!

彼らはキリストに従う者ではない!!

クリスチャンは剣を抜いて、女性や子供をレイプしたり八つ裂きにしたりしません。

十字軍は自らをクリスチャンだと言い、盾には十字架が彫られています。新生した信者ではないという事が、私たちには分かります。また、クリスチャン虐殺に加担したユダヤ人については、神がこう言っています。「彼らがユダヤ人でないことは、わたしも分かっている。」ユダヤ人ではないユダヤ人、クリスチャンではないクリスチャンがいるのです。

だからここは、反ユダヤを言っているのではありません。

神はシンプルに、ここスミルナでクリスチャンを迫害しているユダヤ人は、本当のユダヤ人ではないと言っているのです。

同じように、ユダヤ人を迫害しているクリスチャンは、クリスチャンではないのです。

このニュアンスがわかりますか。

「彼らは、本当はサタンの会衆だ。」「彼らがあなたにする事を恐れるな。」と主は言われました。

使徒ヨハネから直接指導を受けた最後の弟子であり、スミルナ教会を牧していたホーリーカーブ牧師。AD155年、彼が86歳の時に、再びクリスチャン迫害が起こりました。

ローマ兵たちはホーリーカーブを捕まえて、市の広場に連れて行き、「愛するホーリーカーブさん、ただ一つまみの香を皇帝シーザーのこの祭壇で焚く。それだけで済む。」と言いました。「ちょっとシーザーに香を焚くだけ。それでお前は自由になれるのだ。形だけだよ、

ホーリー。」

すると、ホーリーカーブはこう言いました。「この 68 年間、私にこれほど良くして下さった方を、どうして否定できようか。絶対に否定はしない！」

「それなら仕方がない。」と彼らはホーリーカーブを縄で縛り、足元に火を点けました。

しかし、火が彼に近付かず、焼かなかったため、しびれを切らした兵士が、槍で 86 歳のホーリーカーブの肩を突き刺しました。

すると血が溢れ出て、足元の火を消してしまったのです。血が火を消した！

火あぶりの火が、血によって消された！興味深い現象です。

その時、この残虐行為を監督していた長官が言いました。「ホーリーカーブ、折角命拾いをしたのだ。ただ、皇帝の祭壇に香を捧げるだけじゃないか。もう一度、火を点けるような事を、そんな事をさせないでくれ。」

ホーリーカーブは答えました。「あなたはほんの 1 時間ほど燃える火で私を脅した。しかし、あなたには永遠の火が待っている。」

それで、彼は再度火を点け、ホーリーカーブは天に召されて行きました。

皆さん、ホーリーカーブはスミルナ教会の牧師で、彼らは大変な状況、激しい迫害の中にいたのです。

気が付きましたか？

この教会だけ、イエスからの矯正のメッセージがありません。

彼らはパワフルで清い教会でした。それは、猛烈な迫害に耐えていたからです。

イエスはこう言われました。

「死に至るまで忠実でありなさい。」(黙示録 2:10)

イエスは、「あなたがたをそこから救い出そう。」「迫害から救い出す。」とは言っていないのです。この地上で襲ってくる迫害から救い出すという約束ではなく、「死に至るまで忠実であれ。」「あなたがたは砕かれ、苦痛を味合う。」

「そうすれば、わたしはあなたにいのちの冠を与えよう。」(黙示録 2:10)

「勝利を得る者は、決して第二の死によってそこなわれることはない。」(黙示録 2:11)

第二の死とは何ですか。

黙示録 20 章 6 節からを見て下さい。ここでは、信じなかった者が復活しています。

信者の復活は、第 1 テサロニケ 4 章、第 1 コリント 15 章にあるように、携挙の後。

しかし、不信者は、千年王国の後まで墓の中に留まります。そして、白い御座の裁きの時に、主の前に立たなければなりません。

皆さんはそこにはいません。私たちは、もう既に裁かれています。イエスがあなたの代わりに、また私のために十字架の上で死んだ時に。

しかし、不信者は最後の裁きの時に、墓から蘇って、白い御座の前に立ち、有罪の判決を下される。そして、泣き叫び、呻き、歯ぎしりに満ちた暗闇の中に放り込まれるのです。

ジプシー・スミス牧師が白い御座の裁きについてメッセージしている時、バルコニー席にいた高齢の女性が馬鹿にして言いました。「歯がなかったらどうなるの？」

泣き叫び、呻き、歯ぎしり…歯がない人はどうなるのか。

そこで、彼はメッセージを止めて、バルコニーに向かって言いました。「奥さん、あなたのために歯が与えられますよ。」

第一の死は、肉体の死。第二の死とは、永遠の死。

「もしあなたがたが最後まで耐え忍ぶなら…」主は言われます。

「**第二の死によってそこなわれることはない。**」(黙示録 2:11)

つづく

試練に耐える人は幸いです。

耐え抜いて良しと認められた人は、神を愛する者に約束された、いのちの冠を受けるからです。(ヤコブ 1:12)